

【授業科目】微生物検査学特論 Advanced Laboratory Microbiology

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィス アワー	教職員への 授業公開
森 啓至	4年次 後 期	選 択	1	15	講 義	あり	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	微生物学、微生物検査学Ⅰ・Ⅱ、微生物検査学実習Ⅰ・Ⅱ、薬理学などで履修した知識を総合し、他の専門科目との関連性を持たせ、さらに臨床微生物に特化した現場で役立つ知識を学修させる。微生物学領域、特に病原微生物の検査においては、その基礎から応用と、抗菌薬の話題も交えて講義する。臨床ウイルス学についても感染症、それぞれの検査法、感染経路とその予防法、治療法も合わせて教授する。＊実務経験を持つ教員が授業を進める。 課題に対するフィードバック方法／適宜実施する課題や小テストについては模範解答を解説し返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	① 微生物検査の種類と意義を説明できる。 ② 微生物検査の検査方法について解釈し説明できる。 ③ 微生物、ウイルス感染症などの診断、治療効果判定の原理と技術について説明できる。							
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	微生物学および微生物検査学の基礎知識を元に、現場に即した問題などを解きながら授業を進めるので、予定される問題については事前に解いてから授業に臨むこと。受講にあたり30分程度の予習と60分程度の復習を行い積極的に取り組むこと。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください							
授業計画	第1回 微生物の基本、染色法、培養方法 第2回 薬剤感受性試験 第3回 <i>Staphylococcus</i> 属菌の特徴と病原性および検査方法 第4回 腸内細菌科(Enterobacteriaceae)の種類、特徴、 <i>Shigella</i> 属、 <i>Salmonella</i> 属腸管出血性大腸菌などの種類、特徴、病原性および検査方法 第5回 <i>Bordetella pertussis</i> 、 <i>Listeria monocytogenes</i> 、 <i>Corynebacterium</i> 属、 <i>Bacillus</i> 属、 <i>Nocardioforms</i> 属の特徴と病原性および検査方法 第6回 抗酸菌(<i>Mycobacterium</i> 属)の特徴と病原性および検査方法 第7回 嫌気性菌の特徴と病原性および感染症、検査方法 第8回 真菌・ウイルスの分類と特徴および検査法							全て森
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 小テスト10%、 定期試験90%							
教科書	『最新臨床検査学講座 臨床微生物学』医歯薬出版株式会社 (1年前学期「微生物学・微生物検査学Ⅱ」、1年後学期「微生物検査学Ⅱ」 で使用するものを使用)					参考書等	国家試験対策問題集など	
学生への メッセージ	臨床現場での応用力を身につけるため、単に暗記だけで終わることなく理解につとめよう。様々な角度から検査結果を判読できる応用力を身に付けよう。							